

英語学概論 (第15講)

言葉と社会、言葉と国家

第15講で学ぶこと

- ▶ 国家と言語とはどのような関係にあるか。
- ▶ 言語を通して国家はどのような政策を行うのか。
- ▶ 現在の英語圏の国々の言語政策はどのようなものであるのか。



社会言語学

- ▶ 社会と言語の関係を研究する学問→社会言語学
- ▶ アメリカの1960年代の公民権運動を契機として発展した。
- ▶ 公民権運動とは黒人の差別撤廃運動である。
- ▶ 女性解放運動 sexism 
- ▶ 多文化主義：様々な文化の違いを認めて行こうとする運動である。racismなどを否定する。

公用語と国語

- ▶ 公用語：official languageと呼ばれて、国の機能や運営を図るために使われる言語である。
- ▶ 国語：national languageと呼ばれて、その民族の誇り（歴史、民族の統一）と結びついている。
- ▶ 公用語と国語が重なる国もあるが、異なる国も多い。



言語と国家の結びつき

- ▶ 英語圏(English-speaking countries)の実態
- ▶ イギリス (イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランド)
- ▶ アメリカ合衆国 English Only, English Plus
- ▶ カナダ 二言語多文化主義 (英語とフランス語の二言語、多文化)
- ▶ オーストラリア 白豪主義→多文化主義
- ▶ LOTE (Languages Other Than English)

アメリカ

- ▶ アメリカは英語が主流と考えられているが、スペイン語などの話者も増大している。
- ▶ English Plus : 英語のみを使用とする動き。
- ▶ English Only : 英語に加えて他の言語も推進しようとする動き。

イギリス

- ▶ イングランド
- ▶ スコットランド：ケルト語が残っている。
- ▶ ウェールズ：ウェールズ語が英語と共に公用語とされている。
- ▶ 北アイルランド 
- ▶ アイルランドとの宗教的な対立からアイルランド紛争が生じていた。

カナダ

- ▶ 2言語多文化主義
- ▶ 英語とフランス語がカナダの公用語である。
- ▶ 英仏系の民族以外の増加と、多文化共生主義を唱えていた。
- ▶ 移民を積極的に受けて入れて、世界的に移民先としても人気のある。

オーストラリア

- ▶ ながらくイギリス領であったが、1960年頃からアジアへも目を向けるようになり、白豪主義を取りやめた。
- ▶ 英語が中心であるが、現在ではLOTE(language other than English)と呼ばれる9つの言語(Arabic, Chinese, French, German, Greek, Indonesia/Malay, Italian, Japanese, Spanish)の推進も行っている。

日本

- ▶ 日本語が主として話される単一民族国家として知られてきたが、現在では移民の流入でその傾向が異なってきている。
- ▶ 外国語教育は英語中心に行っているが、現在は小学校からはじめて、できるだけ早期にたくさんの時間という傾向が見られる。
- ▶ 小中高に関しては、英語を中心に教育を行っている。

ことばの変種

- ▶ 地域方言(regional dialect)→地域によって異なる。
- ▶ 社会方言(social dialect)→話し手の社会階級によっても異なる。
- ▶ アフリカ系アメリカ人の英語(AAVE, Afro-American Vernacular English)が彼らの中で有力な言語である。
- ▶ AAVEは1960年代以前は文法的に欠陥のある劣った言語であるとされた。
- ▶ 現代では、黒人（アフリカ系アメリカ人）の誇りを示す言語として評価が変わりつつある。

ピジンとクレオール

- ▶ ピジン
- ▶ 言語が異なる人々の間で自然に生じる混成語→通常は簡単な語彙と文法から成り立っている。習得は簡単である。
- ▶ クレオール (クレオール) 
- ▶ ピジンを話す人々の間で結婚があって、その子どもたちがピジンを母語とすると、それは急速に発展して、語彙が増加して、文法も複雑化する→クレオールと呼ぶ。
- ▶ マレーシア語はマレー半島やインドネシアでの通商語であったピジンから発達した語である。文法的に簡単である。

複数の言語を話す人々

- ▶ モノリンガル(monolingual)
- ▶ バイリンガル(bilingual)
- ▶ マルチリンガル(multilingual)
- ▶ 社会全体の場合と個人の場合とに分けられる。→カナダの事例



ダイグロシア (diglossia)

- ▶ 上位の言語（公的な使用）
- ▶ 下位の言語（私的な使用）
- ▶ 旧植民地国では、公用語として宗主国の言語を用いるが、私的な場では土着語を用いている。このような場合は、ダイグロシアと呼ばれている。

課題

- ▶ 世界の中から5つの国を選んで、各国の公用語と国語の関係を調べよ。
- ▶ 日本における小学校の英語教育の実態を調べよ。

